

電気のふるさと

電源地域ニュース

新潟県柏崎市 特集号

TOP にきく

会田 洋 さん ×
(柏崎市長)

新 欣 樹

(財)電源地域振興センター理事長

PICK UP!

「復興」それは新しいまちづくり
～震災から力強く立ち上がる柏崎～

My Angle ～専門家の視点から～

ファシリテータの役割と重要性

センター掲示板

研修のご案内 他

産品自慢

アドベリー (滋賀県高島市)





柏崎市長
あいた ひろし
会田 洋さん

昭和22年生まれ。大阪市役所に就職後、昭和52年に長岡市役所に入庁。文化行政室主幹として、当時全国的にも先進的だった文化行政を推進。平成3年から6年には、長岡造形大学の設立と運営の基礎づくりにも尽力。平成9年からは、企画部長、都市整備部長、環境部長などを歴任。平成14年、財団法人環日本海経済研究所勤務を経て、平成16年12月より柏崎市長に就任。

■新潟県柏崎市 (人口：約93,000人 面積：442.70k㎡)
新潟県柏崎市は、中越地方日本海側の中央に位置し、15の海水浴場と米山・黒姫・八石の刈羽三山に囲まれた、海に山にと自然豊かな街です。基幹産業は工業で、機械金属や自動車関連など多くの企業が立地しており、自然と都市機能が調和した魅力ある都市として、さらなる進化を遂げようとしています。また、柏崎刈羽原子力発電所を有し、エネルギー供給都市としての役割を担う柏崎では、バイオマスタウンの形成や、新エネルギー開発への取り組みも盛んに行われています。

■発電所データ
柏崎刈羽原子力発電所
出力：821.2万KW(1～7号機計) 運転開始：昭和60年9月(1号機)
事業者名：東京電力株式会社

■今号の表紙
ぎおん柏崎まつり海の大火火大会 (新潟県柏崎市)

トップに
きく

新潟県柏崎市

会田洋さん × 新欣樹

(柏崎市長)

(電源地域振興センター理事長)

海、山、四季折々の魅力があふれる柏崎市。二度の震災に見舞われ「復旧」から「復興」、さらなる「未来」へ。「エネルギーのまち」は、原子力を基盤にしつつ「ものづくり」の伝承へ、地域一体となつて取り組む会田柏崎市長にお話を伺う。

四季折々の魅力あふれる
柏崎



早春、雪を割って咲く雪割草の花。

新・柏崎市といえば、春には「雪割草」、夏には鯨波をはじめとした十五の美しい砂浜での海水浴や大花火大会、秋には伝承五百年の「綾子舞」など歴史ある伝統行事、冬には「鱈汁」に代表される温かい食など、四季折々の魅力があふれるまちですね。

会田市長・柏崎市は「自然と歴史と文化の息づく町」です。「雪割草」は、越後の長く厳しい冬を耐え抜き、春の雪解けを待つて咲く可憐な花で、新潟県の草木でもありませんが、柏崎市には、「越後雪割草街道」や雪割草が多く原生する「雪割草の里」があり、その保存に力を入れています。

また、柏崎の海水浴場は水質が良いのが特徴で、番神・西番神海水浴場は、環境省の「快水浴場百選」にも選ばれています。

毎年秋に舞われる女谷地区の「綾子舞」は、出雲阿国歌舞伎の流れを現在まで受け継ぎ、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。また、国指定名勝である貞観園は、主石竇木という思想に則つた庭園で、青く苔生した石が特徴的で、京都の苔寺にも比され、落ち着いた様相を見せてくれます。「食」についてですが、柏崎はコ



綾子舞は、出雲の阿国の初期歌舞伎踊りの面影を色濃く残す古典芸能。



西番神海水浴場。子供連れに特に人気で、海水浴や磯遊びが楽しめる。

シヒカリの産地で、一等米の比率が県内一位です。また年間を通じて鯛が釣れることでも知られており、これらを使った鯛めしなどが有名です。

米が美味しい、水が美味しいことから、美味しい酒も造られています。かつて日中国交回復の記念パーティーで乾杯に用いたお酒も、柏崎で造られたものだったんです

新・柏崎市ではその恵まれた地域資源と、「ものづくりのまち、エネルギーのまち」としての特長を活かし、平成十八年度に第四次総合計画を策定のうえ、魅力あるまちづくりを進めていると聞いています。

会田市長・柏崎市は「石油の町」に始まり、現在は世界一の原子力発電所が立地している所謂「エネルギー」を機軸として発展してきたまちです。

第四次総合計画は、平成十七年の一市二町の合併に伴い新しい柏崎市のスタートとして、



百二十人の市民の皆様は委員になつていただき、その英知を集めて検討・策定したものです。特に基本理念「好きです輝く柏崎」は、女性の意見を取り入れて決めたものです。

この総合計画は、平成二十八年度までの十年間とし、柏崎市の将来像、重点プロジェクト、まちづくりの基本方針を示した「基本構

想」と、それを実現するための施策、事業、目標、指標などを五カ年ごとに体系的かつ具体的に示した「基本計画」で構成されています。

また、目指すべき三つの都市像として、「ものづくりと技術が集積したまち」「安全で健康に暮らせるまち」「自然と文化が息づく潤いのあるまち」を掲げ、実現に向けて計画を推進しています。

「ものづくり」の継承

新・目指すべき都市像として、第一に「ものづくりと技術が集積したまち」を掲げている点に、非常に共感

を覚えます。そういえば、柏崎市には、大学も二つあるそうですね。

会田市長…ええ。新潟産業大学と新潟工科大学があります。人口十万人足らずの市に二つも四年制大学があるのは、確かに珍しいかもしれませんね。新潟工科大学は、地元人材が育つための大学が欲しいという強い思いから、地元企業が出資して設立されたものです。ものづくりマイスターカレッジの講義なども隣の「ものづくり活性化センター」で行われています。

新…「ものづくりマイスターカレッジ」とは、具体的にどのようなものでしょうか。

会田市長…人材育成の観点から、地



電源地域振興センター理事長

あたらし きんじゅ
新 欣樹
昭和18年生まれ。昭和40年、通商産業省入省。科学技術庁長官官房長を経て、中小企業庁長官などを歴任。石油公団理事などを経て日本原子力発電株式会社副社長、平成21年7月より財団法人電源地域振興センター理事長。

は終わっており、ようやく震災からの復旧の目処がついてきたところですが、

新…震災の影響で、観光客も大幅に減少したと聞いています。当センターとしても何かお手伝いしたいと考え、昨年、海水浴キャンペーンを実施させていただくとともに、東京電力が主催する「新潟フェア」を運営させていただきました。今年度も国の事業に応募し、7月に海水浴キャンペーンを実施しております。また、十月には現地産品の商談会を予定しており、柏崎産品の販売促進の一助になればと思っています。

会田市長…センターの皆さまには、大変お世話になっております。私ど



県のイベントに展示中のEV車

震災復興計画
7つの重点プロジェクト

- 災害公営住宅の整備
- 産業支援機能の整備・強化
- 柏崎駅周辺工場跡地の開発・整備
- 新市民会館の建設
- えんま通り商店街をはじめとした商店街の復興
- 海の柏崎の魅力発信
- 災害に強い幹線道路網の整備

元製造業の将来のものづくりを担う若い人たちに熟練した技術者の技術を継承していくことが重要であると考え、柏崎商工会議所と市、地元工業界でつくる柏崎技術開発振興協会の基盤技術継承支援事業の一環として開催しているものです。

産学官がスクラムを組んで若手人材の育成とレベルの向上を図るもので、平成二十年には、その拠点として市が「ものづくり活性化センター」を設置し、毎週水曜日にセミナーや実技指導を実施しています。現在四期目を迎えておりますが人気もあり、若い人も非常に熱心に参加しているんですよ。

復旧から復興 「さらなる未来へ」

新…そのようなまちづくりを進めている中で、柏崎市は、平成十九年七月十六日の中越沖地震により甚大な被害を受けました。地震から二年が経過しましたが、ここまでの復興の道のりは決して平坦ではなかったとお察しします。

会田市長…確かに大きな被害がありました。中越沖地震の前にも、平成十六、十八年にかけては中越地震や水害、豪雪が続き、ようやくそれらの傷が癒え、いよいよ第四次総合計画がスタートするという時に、中越沖地震が起こったわ

ります。

新…私は、単に震災復興というだけではなく「さらなる未来へ」と謳っておられるところに感服しました。

会田市長…「さらなる未来へ」は「震災復興計画」のキャッチフレーズです。一度被災した町は二度と同じ状態には戻りません。ならば、これを機に新しいまちづくりをしていこうと考え、この言葉にいたしました。

復興計画では、平成二十二年までを復旧期、平成二十四年までを再生期と位置づけています。

計画では、「市民生活の再生」「まちの活力の再生」「柏崎の魅力の再生」など五つの計画目標のもと、市民と行政が「復興」を実感できるように七つの重点プロジェクトを設定し、事業の推進を図っています。これらの目処が立ったときには、総合計画についても見直しを図っていきたくと考えています。

原子力を基盤に新しい 取り組み

新…最後に、今後の課題や展望を教えてください。

会田市長…現在、私は、三つのまちづくりの目標を掲げています。それは、「災害に強い安心して暮らせるまち」、「低炭素社会を目指す



マイスターカレッジの事業風景

被害状況がひどく、一時はどうなることかと思いましたが、国、県、自衛隊、周辺自治体や全国の方々の温かいご支援をいただき、非常に速いスピードで復旧しています。

新…被災された住民の方々のお住まいの状況はいかがですか。まだ仮設住宅が見られましたが。

会田市長…まだいくつか仮設住宅が残っていますが、この八月に災害公営住宅が完成し、仮設住宅にお住まいの方々は、順次そちらに移っていただきました。他の公共施設についてもほぼ修復

エネルギーと環境のまち」、「教育・文化・スポーツの盛んなまち」です。新…「低炭素社会を目指すまち」というのは、非常に注目されますね。

会田市長…「低炭素社会」を進めていく上で、原子力立地自治体である柏崎市では、その原子力を基盤としながらも、それに続く新しい取り組みとして、経済産業省の「EV・PHVタウン構想」にモデル地域として参加しています。現在、EV導入について積極的に取り組んでおり、柏崎市では全国でも初の試みである「EVタクシー」が導入されています。今後は、商工会議所、行政が協力し、年度内に市全体で七台程度EVを導入する予定です。将来的にはEVに必要な部品の製造を行う企業の創出や、そういった研究開発に取り組んでいきたいと思っています。

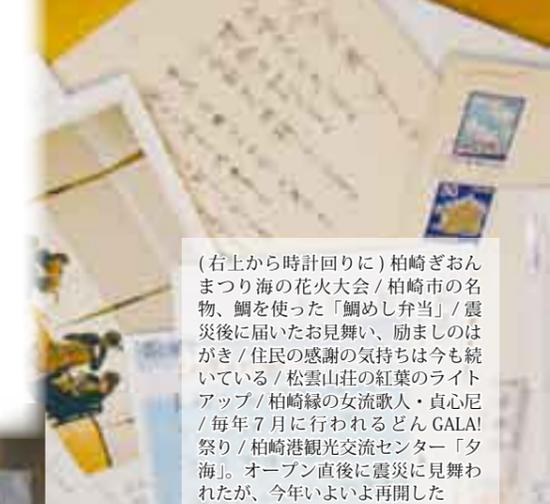
また、バイオマスタウン構想に裏打ちされた木質ペレット燃料製造やリチウムイオン電池といった新エネルギー関連産業の新規立地を進めていきたいと思っています。

新…原子力発電、EV、新エネルギーが一体となった新しい都市構想は、ひとつのモデルとして非常に良い点に着目されていますね。今後とも「安心・元氣・希望に満ちたまちづくり」を目指しがんばってください。本日はありがとうございました。

「復興」それは新しいまちづくり

震災から力強く立ち上がる柏崎

三年間で二度の大地震に見舞われ、大きな被害を受けた柏崎市。しかしそれに屈することなく、震災から得た経験と人々のつながりを活力として、新しいまちづくりに取り組んでいる。未来へ元気に歩み出す、柏崎市の姿にスポットを当てた。



(右上から時計回りに) 柏崎おんまつり海の花火大会 / 柏崎市の名物、鯛を使った「鯛めし弁当」 / 震災後に届いたお見舞い、励ましのはがき / 住民の感謝の気持ちは今も続いている / 松雲山荘の紅葉のライトアップ / 柏崎緑の女流歌人・貞心尼 / 毎年7月に行われるどん GALA! 祭り / 柏崎港観光交流センター「夕海」。オープン直後に震災に見舞われたが、今年いよいよ再開した

心後ありがとう



概要

中越大地震からわずか三年後の平成十九年七月、震度六強の地震が柏崎市を襲った。被害は人や建物・施設はもとより、原子力発電所への影響を心配する風評被害も重なって、観光交流産業へも広がった。その時、行政はどう動きどう対処したのか。このダメージから立ち上がるために、人々の支えとなったものは何か。そしてたび重なる震災体験は、新生・柏崎市にどう活かされているのだろうか。

CHAPTER 1 (P 8)

大地震発生！住民は、行政は…

また襲いかかった大地震。倒壊する家屋、続出するケガ人、遮断されたライフライン…突然の危機に対して、市の対応は、パニック状態の市内で、詳しい被害状況を把握するのは困難。そこで市が行ったことは。

CHAPTER 2 (P 9)

イザという時に地域力が問われる

この震災に、三年前の被災の経験はどう活かされたのか。その時、被災者たちの大きな力となったのは何だったのか。身体だけでなく、地震のショックや避難のストレスで傷ついた心をどのようにケアしたのか。

CHAPTER 3 (P 10)

災いを未来のパワーに変えて

交通や施設の被害とともに、原発火災による風評被害が観光業にダメージを与えた。観光客を呼び戻すために、行政はどうしたのか。二度の震災から得たものは何か。そして新生・柏崎がめざす未来とは。

新潟県中越沖地震——柏崎市の被害状況と対応

人とまちに大被害をもたらした震度6強

平成19年7月16日・午前10時13分に発生。震源のマグニチュード6.8、柏崎市では最大震度6強を観測した。全壊家屋1121棟、半壊家屋4583棟、死者14人。祝日(海の日)だったこと、夏季で食事時でなかったことなどが幸いし、火災は2件で市街地の火災はなかった。また、東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所では、地震発生時点で原子炉の運転は正常に停止した。しかし、3号機の変圧器で火災が発生し、後に風評被害を招いてしまった。

被災者への対応では、前回震災時の経験を活かし、避難所の設置、食糧供給、高齢者・障害者の安否確認などが迅速に行われた。また延べ19万人を超える公的人員、延べ約2万2千人のボランティアといった県内外の人的支援を受けて復旧が進行した。

〈主な被害状況〉

●人的被害	死亡者:14人けが人:1,664人(重傷217人、軽傷1,447人)
●住居建物被害	28,423棟(平成21年7月1日現在)
●施設被害	総額:2,264億900万円(住家、公共・文教施設、道路、河川、ガス・上下水道関係、農林水産関係など)
●交通機関の被害	国道:国道8号が全面通行止め(7日間)、国道352号が椎谷地区で通行止め(現在、復旧を断念しトンネル整備を開始) 鉄道:信越本線が全面運休(土砂崩れで59日間) バス:路線バスほぼ全便運休(2日間)
●ライフラインの被害	電気:停電23,300戸(2日後復旧)、水道:断水40,260戸(19日後復旧)、ガス:停止30,978戸(42日後復旧)

〈応急期～復旧期における主な対応〉

●避難所の設置	避難所数:82カ所(他に福祉避難所6カ所) 避難人数:ピーク時11,410人(延べ66,345人)
---------	--



震災後の様子

大地震発生！住民は、行政は…

駆けつける間にも家が倒壊していく

「つい三年前に起きたのに、まさか！というのが実感でした」と当時を振り返るのは、柏崎市危機管理監の須田幹一氏。その日は休日でも外出していたが、地震発生後すぐに市役所へ向かった。道路が被害にあり、信号機も止まっている。途中、傾いた家が倒壊していくのが見えたという。発生約二十分後には市長が到着。十時五十三分には、市庁舎四階に災害対策本部が設置され、情報の収集



倒壊した家屋。突然の震災で全壊した家屋も多かった

活動が始まった。午後には全職員千七十五人のうち八割が登庁していた。午後三時に第一回本部会議が開かれ、避難所の開設状況、火災救助や病院の状況などが報告されたのだった。「前回の震災を教訓に、緊急時の準備ができていたから素早い対応がとれた」と須田氏は語る。

できるだけだけの情報を市民に提供

とはいえ、全体の被害状況を把握するのは困難だった。一一九番通報が殺到し、怪我人・重傷者が次々に

搬送されて救急病院の外来はパンニック状態。多くが近隣の医療施設に移送された。市職員は受け持ち地域の情報収集に駆けつけたが、家屋の倒壊状況や住民の安否確認もままならなかった。そこで市は、まず市民の各家庭に設置した「防災行政無線放送」で、津波情報や交通・ライフラインの現況、原子力発電所の情報、避難所の案内など、できるだけの情報発信し続けた。さらに地域のコミュニティ放送局の「FMピッカラ」も全面的に協力し、二十四時間態勢で震災情報を市民に提供した。

イザという時に、地域力が問われる

三年前の震災経験が随所で活かされる

中越沖地震では、その他にもさまざまな対応において前回震災の経験が活かされている。例としては、まず避難所の認知が行き渡っていたため、避難が比較的スムーズだったことが挙げられる。地震発生から即時設置したこと



商店街も大きな被害に見舞われた

医療では、新潟市民病院DMAT（災害医療チーム）の合計四十三チームが、その日のうちに応援に駆けつけてくれた。

また、地域での自主防災会の活躍も見逃せない。柏崎市では、地域を昔からの基本的な小学校区によって三十一に分け、各地区が「コミュニティ」として独自の活動を行っている。とくに三年前の震災で市内最大の被害を受けた北条地区では、普段からコミュニティの防災活動が盛んで、毎月防災訓

練を実施したり、防災携帯無線を整備するなどの準備をしていた。小学校の運動会でも、防災活動が競技となっているほどだ。それが大きく機能して、避難誘導や住民の安否確認が円滑に行えたのだ。

何よりも「人の応援」がありがたい

災害時の犠牲となりやすいのが高齢者や障害者だ。そこで日頃から彼らの状況を知っている市の介護高齢課職員

や、民間の障害者相談支援センター委員らが、数日かけて安否の確認を行った。倒壊家屋の巡回には多くの警察官や警察犬が動員された。食糧や飲料水など物資の支援も重要だが、大災害の直後に必要なのは、やはり人手である。自衛隊や他の市町村の消防・警察などの支援とともに、大きな力となったのがボランティアの活動だった。県内外から延べ二万七百人を超える人々が支援に訪れ、避難所での様々な手伝い、家の中に散乱した家財道具の片づけな



(上) 自衛隊による給食サービスは、地震直後から行われ、ピーク時は54箇所で行われた。(右下) 県内外から保険師5686名が派遣。避難所におけるサポートのほか、被災地全土を訪問しニーズ把握に努めた。(左下) 震災で散乱した家財道具を片付けるボランティア。作業だけではなく、元気づけられることも多かったという。



どを熱心に行ってくれた。市では災害ボランティアセンターを設置し、福祉協議会の職員が受け入れや活動の差配など仲介の役割を果たした。住民も、はじめは「助けてもらうからには、お茶くらい出さなければ」とか「なにもお礼ができないから、悪いから」と遠慮する声もあったが、次第にボランティアのあり方（無償で、お礼はいらない）を理解するようになり、支援は進んでいった。

ハードの支援とソフトのケアを

震災は体だけでなく、心にもダメージを及ぼす。地震のショックや恐怖心がトラウマとなつて、後々まで被災者を苦しめるのだ。また避難所生活が長引くことによるストレスも心を蝕む。市は住民の精神面のケアのため、避難所へ医療チームとは別に保健師や心の



柏崎市危機管理監 須田 幹一 さん

健康調査をする「こころのケアチーム」を被災地スタッフの要請に応じて派遣して巡回訪問を行った。家を失った市民は仮設住宅に転居したが、全部で千七戸の仮設住宅は一カ所に集めるのではなく、市内のコミュニティごとにそれぞれ建設したため、知り合いが多い中での暮らしになり、心の負担が少なく安心して住むことができた。さらに県の復興資金を利用し、「こころのケアセンター」を市内に設置。現在も無料での相談に応じている。



柏崎市復興支援室 室長 白川信彦 さん
「個人だけでなく、やはり日頃からの地域での準備が大切だと痛感しました。イザという時に地域力というもの

が試されます」と柏崎市復興支援室長の白川氏。現在、柏崎市では市民の八十五パーセントが地域自主防災会に加入している。震災に遭ったことで、地域のつながりや結束力は確実に高まった。

災いを未来のパワーに変えて

風評被害も重なり観光業に大ダメージ

震災は、柏崎市の重要産業である観光業にも大打撃となった。折しもこれから夏休みに入り、本格的な海水浴シーズンを迎えようとする矢先に、鉄道・道路や海水浴場の施設が被害に遭ったのだ。海の大花火大会で知られる「ぎおん柏崎まつり」も中止になった。また、柏崎刈羽原子力発電所の火災による影響も大きかった（実際には地震発生後、原子炉は正常に運転を停止し、放射能漏れも人体にまったく問題のないごく微量のものだった）。何も心配はないと県知事も新聞などでアピールしたが、前年は百万人を超えた海水浴客



観光交流課 課長 渡部 智史 さん

は、風評被害で十六万人にまで激減してしまった。

そこで柏崎市は、やはり地震で被害をうけた刈羽村・出雲崎町と広域で連携して、八月末に「柏崎地域観光復興推進協議会」を立ち上げ、協同で観光ピーアールに取り組むことにした。しかしその年は復旧に専念せざるを得なかった。

激減した海水浴客を呼び戻せ！

「本格的にピーアールを始めたのは翌年五月の連休明けから。上半期が勝負だと思った」と、柏崎市産業振興部観光交流課の田村光一氏は語る。ポスター、雑誌広告、新聞、ラジオなどのメディアで、風評を振り払うべく安全な海水浴場をアピール。例



観光交流課 課長代理 田村 光一 さん

年訪れる人の多い関東圏（群馬、埼玉など）へは観光誘客のキャラバンにも出かけた。また、NEXCO東日本とのタイアップで、高速道路の「夏割・海水浴バス」を発行した。以前からリピーター客に誘致ハガキなどを送っていた浜茶屋（海の家）・旅館・民宿も、安心を訴えた。

海水浴シーズンの前、毎年六月十四日から十六日に開催され、約一キロに渡って縁日の出店が並ぶ『えんま市』は、例年通り二十万人の人流で賑わった。そして「ぎおん柏崎まつり」も復活し、その夏の海水浴客数は七十二パーセント以上回復して、七十五万九千人になった。

「實際来てみたら、海はきれいで何の心配もなかった」というお客さんの声が多かったと、田村氏は胸をなで下ろしたという。

強くなった、つながり、で通年型の観光交流を

施設は復旧し、今年は天候不順とはいえ、さらに海水浴客数の回復が見込まれる（平成二十一年八月上旬現在）。しかし、いつまでも夏季の観光だけに頼る「海の柏崎」であってはいけないと、柏崎市観光交流課長の渡部智史氏は話す。



「海中空スターマイン」「尺玉三百連発」「尺玉百発一斉打ち」など、勇壮な海上花火を満喫することができる。

柏崎ぎおんまつりと海の花火大会

夏の柏崎を代表する風物詩。見物客も巻き込みながら踊り歩く「民謡街頭流し」、山車や神輿で勇ましくねり歩く「たる仁和賀」などが行われる。とくに約一万五千発の花火が夜空を彩る海の大花火大会が有名で、毎年二十万人以上の見物客が訪れる。



江戸時代末期に建てられた「六宜閣」（国の登録有形文化財）で提供されている鯛料理。

名物・鯛料理

市内の宿泊施設・レストランでは、地元の鯛を使った料理が評判で、県外からも観光客が訪れている。柏崎市では人気の「鯛めし」「鯛茶漬け」などの鯛料理を、柏崎名物としてアピールする取組が進められている。



柏崎七街道のうちの「北国街道」にある松雲山荘のライトアップ。11月上旬から下旬に行われる。大正時代に造園された庭園にある数百本のみみじは、全国でも屈指の紅葉スポット。



「北国街道」にある牛が首屈内稲曲。大露頭は東洋一とも言われている

「じよんのび街道」にある萩/鳥かやぶきの里と、七街道のパフレット（右）

越後柏崎七街道

古くから北国往還の要衝であった柏崎は、主な街道沿いに多彩な地域文化が生まれている。その温故から今様までの多彩な土地柄を、「越後柏崎七街道」（北国街道、綾子舞街道、からむし街道、じよんのび街道、鱈石街道、北条毛利街道、石油街道）と命名。現在、ガイドブックも作成されており、柏崎の魅力を体系的に知ることができる。

「観光交流人口を増やすためには、一年を通して観光客を呼べる柏崎の新しい魅力の開発やアピールが必要。二度の震災で強くなった地域のつながりや結束力を、それに活かしたい」

そこで現在推進中なのが、市内に広がるコミュニティを七つの街道で掘り起こしていく「七街道」事業だ。点在する史跡・観光スポットを、「越後柏崎七街道」の名のもとに結びつけて、市全体を活性化する試みである。また、食に関する名物づくりでは、「鯛料理」に注目している。柏崎市笠島沖は鯛の産卵地で、鯛の水揚げ量が県内トップクラス。今年十月から十二月にJ.Rと地元自治体の協同で実施するデスティネーションキャンペーンでは、「うまさぎつしり新潟」と題して食の魅力をメインテーマに各種特別企画が開催される。その中で鯛料理を盛り込んでいくなど、柏崎の名物として定着させるべく計画が進んでいる。その他にも、名僧・良寛と柏崎に縁が深い貞心尼の史跡を、長岡駅からタクシーで出雲崎町（柏崎市へと訪ねる「タクシー」を巡る良寛と貞心尼を訪れる旅」を企画（十月から実施予定）。そのための観光ガイドを養成する講座を八月から開講し、ガイド志望の市民が参加している。

「これからは様々な年代層に柏崎の魅力をアピールし、交流人口を増やしたい。また、市と市民が力を合わせて受け入れ体制を整えていきたい」

新生・柏崎をめざして復興計画を推進

中越沖地震の翌年・平成二十年に、柏崎市では一日も早い復興と新生・柏崎の創造をめざし、「柏崎市震災復興計画」を策定した。その中で復興には行政が行う「公助」だけでなく、一人一人が備え行動する「自助」と、隣近所などが助け合い支え合って地域を守る「共助」が必要だと述べている。市民・地域・企業・団体・行政が連携・協力し合おうことが復興の実現に欠かせないとの訴えは、たび重なる震災を体験した柏崎の言葉として重みがある。しかしそれだけではない。苦しい時を乗り越えてきた経験を経て、柏崎は未来についてこう語る。「震災からの復興というのは元に戻るのではなく、新しい柏崎を造っていくことだ」と。力強く歩みを続ける柏崎市のこれからに、ぜひ注目していきたい。

本財団では、平成2年度から、毎年約30本、これまで延べ約2万人の参加者を対象に地域振興に役立つ研修を実施しております。今回は、平成21年度に実施した研修の中から、行政と住民の協働による地域づくりを進めていく上で重要な役割を担う「ファシリテータ」について、研修の講師をしていただいた専門家よりその役割と重要性について紹介させていただきます。

テーマ

ファシリテータの役割と重要性

講師



株式会社 石塚計画デザイン事務所

代表取締役 石塚 雅明 さん

1952年生まれ。北海道大学大学院建設工学科修士課程終了後、(株)柳田石塚建設計画事務所を設立。代表取締役。現在(株)石塚計画デザイン事務所、代表取締役。札幌市、横浜市、世田谷区などのまちづくりの現場で、まちづくりワークショップなど様々な手法を用い、地域議論や合意形成に取り組む。また、札幌市や川崎市において住民主体のまちづくり活動へのアドバイスサポートを行っている。2001～2003年、東京大学都市工学科非常勤講師。2005年から公益信託世田谷まちづくりファンド運営委員長。2007年、名古屋大学非常勤講師。

主な著書：『参加の「場」をデザインするーまちづくりの合意形成・壁への挑戦ー』/学芸出版社 『まちづくり学ーアイデアから実現までのプロセスー』 (共著) /朝倉書店 ほか

※ホームページ上でもワークショップのポイントを紹介した「ワークショップの玉手箱」を掲載中。 <http://www.community-design.jp/>

案件

これからの地域づくりにおいては、行政と住民との協働が不可欠であり、関係者や住民の方など多くの方と議論する場をつくる手法として、「ワークショップ」が注目されている。そのワークショップでは、様々な方の意見を効果的に引き出し、議論を促す「ファシリテータ」が重要な役割を担っている。

POINT

参加者の主体性と創造性を助ける環境づくりを

■地域ぐるみで議論をする大切さ

地域社会の今日の状況は、大変厳しいものがあります。人口の減少、高齢化によりコミュニティの支えあう力は弱くなっています。地域の産業も元気がありません。そのような状況でも、このまちに生まれて良かった、このまちに暮らし続けていきたいと思える地域社会をどのようにつくっていくか。地域の総力をあげて取り組まなければならぬ課題であると思います。

そのためには、「地域の課題や可能性は何か」をきちんと見つけ、地域ぐるみで共有することが大切です。そのうえで、課題を解決するための取組みや、地域の可能性を伸ばし個性を育てていく取組みとして何が必要か、できるだけ広く「地域ぐるみで議論」をすることが有効です。とかく大勢で話すと考えがバラバラでまとまらないと言われますが、その多様な考え方の中に、課題解決の大切なヒントが隠されている

る事があります。また、これまでにない地域を支える力のある人との出会いも生まれます。

■ワークショップにおけるファシリテータの役割とは

多くの人の知恵や力を集め、創造力あふれる議論の場をつくる手法として「ワークショップ」が注目されています。ワークショップという手法は、演劇や教育、企業研修など様々な分野でおこなわれています。そのため、ワークショップを一言で定義するのは難しい面があります。あえて言えば、ワークショップとは「参加者が主体的に参加し、体験や話し合いの場を共有する中で、互いに何かを気づいたり学びあったり創り出したりする場」と言えます。このワークショップの進行役をファシリテータと呼びます。ファシリテータは「Facilitate」容易にする、促進する「人」という意味で、単なる司会者

ではなく、参加者による創造的な議論を促すという役割が求められます。促すという行為も、教育的、指導的アプローチではなく、参加者が主体的に気づき、発想する環境づくりに主眼がかけられます。

ファシリテータの役割は、まず参加者との関係づくりから始まります。自己紹介の際のちょっとした心遣いが、発言しやすい場の雰囲気と発言に耳を

傾けるファシリテータへの信頼をつくります。話し合いに入る前に、ワークショップの目的と進め方を参加者の共通認識にすることもファシリテータの重要な役割です。これはワークショップのプログラムづくりにも関係しますが、話し合いの成果がどのような形で地域づくりに活かされるのかを明確にしておく事は、とても大切なことです。また、話しに入

ファシリテータのコツは3つ。 「うなづきの術」、「翻訳の術」 そして、「まとめの術」

(上)ファシリテータの役割は参加者の議論を深めること。参加者の発言に対し「うなづき」、時に「翻訳(誰かの発言の要点をわかりやすく伝える)」ことで、論点が活性化します。
(左)「まとめの術」の例。参加者の意見を分類に分けることでさらに新しい発見がありました。



「ファシリテータ能力開発講座～ワークショップの進め方を学ぶ～」の様子。「こんなワークショップになったらどうしよう」という不安を解決するワークショップを実践。講義だけではなく、参加者にワークショップに参加してもらったり、実際にファシリテータになってもらい、実践力を養成します。



ファシリテータのコツは3つあります。うなづきの術、翻訳の術、まとめの術です。
「うなづきの術」は誰もができて、効果も高い方法です。ファシリテータが参加者の発言に対して笑顔でうなづく事によって、参加者の姿勢も積極的になります。
「翻訳の術」は、参加者の理解を助けるためのものです。難しい行政用語の解説や、場合によっては参加者のほんとうに言いたいことの要点を他の参加者に伝える事も重要です。わからない話には消極的や懐疑的になりませんが、わかりやすい話は議論を活性化します。
「まとめの術」は、参加者の意見を書きとめ、わかりやすい議論の見取り図をつくる作業です。この見取り図が有ると、話が横路にそれたり、同じ話が何度もくり返されることを避けられます。また、参加者が論点を共有し議論を深め、新しい発見を得るのにはたいへん役立ちます。
まとめの術という点、あらかじめ決めた方向に、いかにうまく誘導していくかと捉えられがちですが、決

してそうではありません。すでに結論が見えている事を、大きなエネルギーをかけて議論するのは意味がありません。お役所だけで考えていても、一部の人だけで考えていても解決できない課題に対して、地域ぐるみで、知恵や力を集めて取り組むための話し合いの場を生み出す。ファシリテータは、その創造的な議論を助ける助産婦さんのような役割なのです。

■実践を通してファシリテータの力をつける

どうすれば、そのようなファシリテータの能力を身につける事ができるのか。私はここ数年、電源地域振興センター主催の「ファシリテータ能力開発講座」ワークショップの進め方を学ぶという講座をお手伝いしています。内容は、実際に私がワークショップを実演したり、受講生の皆さんの演習に力点をおいたりして実践型の講座となるように工夫しています。仕上げは、あらかじめアンケートで聞いておいた3つの具体的なテーマをもとに本番のワークショップ。ファシリテータの経験のある方にも、学び直しの良い機会となっているようです。

地域に暮らす一人一人が秘めている可能性はとても大きなものがあります。その力を引き出せるか、出せないか。厳しい状況の今だからこそ、チャレンジしてみる事が大切ではないでしょうか。

「海の柏崎海水浴キャンペーン」を実施しました

平成二十一年七月十八日(土)～二十一日(月)の三日間、経済産業省資源エネルギー庁の委託を受け、「海の柏崎 海水浴キャンペーン」を開催いたしました。

このキャンペーンは、多くの皆さまに柏崎の「きれいな海」や「浜茶屋」の魅力を紹介し、一昨年の新潟県中越沖地震および原子力発電所トラブルの風評被害により落ち込んだ海水浴客の集客を目的に実施したものです。

当日は柏崎市の海水浴場や観光地を紹介するパンフレット・チラシ等の配布パネルや実物大の柏崎花火の展示、柏崎のお菓子や海産物が当たるプレゼント



抽選会の様子



実物大の花火尺玉の展示

ト抽選会などを行い、柏崎の良さを多くの方に知っていただきました。百万人を超えていた海水浴客は、震災直後、十六万人まで落ち込みましたが、昨年は七割近くまで回復しました。今年度は当初悪天候により七月は前年比を割りましたが、八月は天候も回復した影響もあり、前年比105%となりました。

柏崎市の更なる復興支援として、今後「現地産品商談会(十月)」「柏崎物産キャンペーン(一月)」を実施する予定です。

●お問い合わせ先
 (財)電源地域振興センター普及啓発課
 電話：03・5405・8128
 e-mail: fukyu@dengen.or.jp

「第1回 産品試験販売」を実施しました

電源市町村の特産品には、高度な品質や希少性等に関するストーリーを兼ね備えているものも少なくありません。しかしながら、ブランド化を推進するためには、消費者から消費者への伝達が自然と生じる状況を作り出す必要があります。そこで、平成二十一年八月二十六日(水)～三十一日(月)の六日間、イトヨーカドー アリオ亀有店にて「産品試験販売」を実施いたしました。

「産品試験販売」とは、「自社商品が都市部で通用するかテストしてみたい」、「都市部の消費者ニーズを知りたい」、「対面販売をしてみたいけど、どうしていいかわからない」という悩みをお持ちの方々、実際に都市圏の百貨店やスーパーに出展いただく事業で経済産業省資源エネルギー庁の委託を受け実施しています。今回は、十三市町村から十四事業者にご参加いただきました。

当センターでは、今後も特産品のブランド力の現状把握、開発・改良のヒントの取得を目的に産品試験販売を実施してまいります。

【今後の予定】
 ・第一回 イトヨーカドー八尾店
 平成二十一年十月二十八日(水)～十一月七日(金)
 ・第三回 博多大丸 福岡天神店
 平成二十一年二月開催予定
 ・第四回 伊勢丹 立川店
 (開催日未定)



産品試験販売の様子



商品は生鮮品から加工品まで多彩

●お問い合わせ先
 (財)電源地域振興センター販売支援課
 電話：03・5405・8119
 e-mail: hanbai@dengen.or.jp

【読者プレゼント】

今号の「Pick Up」にご登場いただきました柏崎市役所のご厚意により、「柏崎産コシヒカリ特選綾子舞5kg」を五名様にもプレゼントいたします。とじ込みのアンケートハガキに本誌へのご意見、ご感想などをご記入の上、郵送、またはFAXでお送りください。FAXの場合は、アンケートはがき両面の質問項目の回答をA4サイズの紙に記入してお送りください。ハガキが切り取られている場合は、左記問い合わせ先までご連絡ください。

●特選綾子舞とは…
 特選綾子舞は、山間に囲まれた鶴川地域で栽培され、刈羽三山(米山・八石・黒姫)である黒姫連山の大自然からの恵みの水で、すくすくと育った美味しいお米です。
 特に鶴川地域は標高差があり、お米の登熟期の気温条件(昼と夜の温度差)に適し、食味を左右すると言われている濃粉の集積がゆつくりされた高品質で粒の揃ったお米です。

FAXでのプレゼント応募先：
 03・5405・8103

(財)電源地域振興センター普及啓発課



今号のプレゼント「特選綾子舞(米)」 特選綾子舞の生産地「市野新田」

●特選綾子舞(米)に関するお問合せ先
 JA 柏崎 本店 営農経済部
 〒945-0055 新潟県柏崎市駅前1-3-22
 TEL: 0257-21-7514 FAX: 0257-22-1715

【今号でご紹介した電源市町村の発電所データ】

- ◆表紙/TOPにきく/PICK UP!
 新潟県柏崎市 P2を参照
- ◆産品自慢
 滋賀県高島市
 栃生発電所(水力)所在
 出力:1,370kW 事業者名:関西電力株式会社
 荒川発電所(水力)所在
 出力:2,400kW 事業者名:関西電力株式会社

【人事往来】

●電源立地都道府県知事(平成21年5月～7月選挙分)

都道府県名	氏名	当選月日
兵庫県	井戸敏三	7月5日
静岡県	川勝平太	7月5日

●電源地域市町村首長(平成21年5月～7月選挙分)

市町村名	氏名	当選月日
宍粟市(兵庫県)	田路勝	5月3日
常陸太田市(茨城県)	大久保太一	5月10日
新郷村(青森県)	須藤良美	5月12日
上野村(群馬県)	神田強平	5月24日
島田市(静岡県)	桜井勝郎	5月24日
阿久根市(鹿児島県)	竹原信一	5月31日
半田市(愛知県)	榑原純夫	6月7日
中札内村(北海道)	田村光義	6月9日
和泉市(大阪府)	辻宏康	6月14日
田子町(青森県)	松橋良則	6月21日
佐々町(長崎県)	古庄剛	6月21日
椎葉村(宮崎県)	椎葉晃充	6月21日
宮古市(岩手県)	山本正徳	6月28日
鹿角市(秋田県)	児玉一	6月28日
西尾市(愛知県)	榑原康正	6月28日
宇部市(山口県)	久保田后子	6月28日
富岡町(福島県)	遠藤勝也	7月7日
宮田村(長野県)	清水靖夫	7月7日
西会津町(福島県)	伊藤勝	7月12日
高岡市(富山県)	高橋正樹	7月12日
波田町(長野県)	太田典男	7月12日
奈良市(奈良県)	仲川げん	7月12日
中間市(福岡県)	松下俊男	7月12日
鹿町町(長崎県)	宮田安猶	7月14日
庄内町(山形県)	原田真樹	7月19日
新得町(北海道)	池田正利	7月21日
尾鷲市(三重県)	岩田昭人	7月26日
肝付町(鹿児島県)	永野和行	7月26日
曾於市(鹿児島県)	池田孝	7月26日
仁淀川町(高知県)	大石弘秋	7月28日

産自慢 アドベリー

(滋賀県高島市)



(右上)アドベリー(ポイズンベリー)。サクランボよりも大きめの実で、深い赤紫色が食べごろ。
 (右下)アドベリーの苗は、ニュージーランドの果実生産組合「ベリーフルーツ・エクスポートニュージーランド」から譲り受け栽培している。
 (上)アドベリー生産協議会員が開発したアドベリー商品。加工品や冷凍果実は「道の駅藤樹の里あどがわ」のほか、協議会員の店舗や県内の宿泊施設等で販売されている。また、インターネットでの販売を行っているところもある。

唯一無二の「健康果実」アドベリー 栽培から加工・販売まで地域一丸となって実施

アドベリーは、滋賀県高島市安曇川地域で栽培されているポイズンベリーの愛称です。ポイズンベリーとは、主産国のニュージーランドをはじめ、欧米で人気の高いフルーツです。日本ではまだ馴染みの少ないこの果実を、日本で初めて本格的に栽培を始めたのが、この安曇川地域です。

栽培のきっかけは、「道の駅藤樹の里あどがわ」オープンに向けた特産品開発の研究会でした。どこも手がけていないものを特産品に、と検討していたところ、ポイズンベリーの存在を知ったのです。早速、地元農家や加工業者、商工会、行政などで「アドベリー生産協議会」を立ち上げました。さらに、ニュージーランドへ研修に赴いたり、技術者を招き栽培の指導を受けた結果、努力が実り、翌年の平成16年には収穫が実現。そして、協議会では栽培から加工・販売まで一丸となって取り組むことになりました。

はじめ、葉酸、ビタミンなどが多く含まれ、「健康果実」と呼ばれているほどです。

海外では大規模に機械化された農場で作られています。安曇川地域で栽培されるアドベリーは、日本の風土に合わせ、害虫駆除も含め、全て手作業で行われています。非常に手間がかかる半面、それが安全性につながり、健康果実としての価値を高めています。

果実の収穫期は6月下旬から7月上旬にかけての2〜3週間ほど。しかも摘み取った果実は冷蔵状態でも1日か2日しか保存ができないため、大部分は冷凍保存されて加工品に使われます。

現在、アドベリーの加工商品はジャムやアイスクリームから、お餅、お酢まで多彩に展開しています。また、収穫期には、果実を「道の駅藤樹の里あどがわ」などで販売するほか、アドベリー収穫祭や摘み取り体験を実施し、摘みたてのアドベリーを食べられる機会も設けています。

高島市のオンリーワンの果実、アドベリー。まずは加工品から、そして収穫期にはぜひ果実も味わってみてください。

●お問い合わせ先 / アドベリー生産協議会 (高島市商工会内) TEL:0740-32-1580 <http://www.adoberry.jp>